

条例見直し調書

		作成年度	令和6年度	次回見直し予定	令和11年度
条例名	相模湖、津久井湖、丹沢湖、寒川滞水域、社家滞水域、飯泉滞水域等の水域における行為の規制に関する条例				
条例番号	昭和39年神奈川県条例第94号	法規集	第11編第5章		
所管室課	県土整備局河川下水道部河港課				
条例の概要	相模湖等において、ダムや堰（以下「ダム等」という。）の付近の水域での危険の防止を図るため、指定の水域における舟艇の運航等の行為の制限等について必要な事項を定めている。				
検討	視点	検討内容			備考
	必要性 （現在でも必要な条例か。）	<p>1 水泳、舟艇の運航等の行為の制限について</p> <p>ダム等の上流の水域においては、ダム等の操作により急激な水位の低下が生じ、また、下流の水域においてはダム等の操作により河水が急流となって流下するため、これらの水域における水泳や舟艇の運航等が危険であることは現在においても変わらない。</p> <p>2 立入禁止について</p> <p>ダムや発電施設の放水口付近においては、人の立入りが危険であることは現在も変わらない。</p> <p>上記1及び2により、行為の制限及び立入禁止の措置について定めている本条例は必要である。</p>			
	有効性 （現行の内容で課題が解決できるか。）	本条例制定以後、条例違反者を除き水難事故の発生はなく、危険防止・安全確保の観点から有効である。			令和5年度舟艇の運航の許可状況 43者(1,247隻)
	効率性 （現行の内容で効率的といえるか。）	相模湖に所在する相模ダム、津久井湖に所在する城山ダム等を管理し、制限区域の実情に精通している公営企業管理者に行為許可、違反者指導の業務を委任し、効率的に運用している。			
基本方針適合性 （県政の基本的な方針に適合しているか。）	本条例は、「新かながわランドデザイン基本構想」2040年に向けた政策の基本方向「安全・安心で持続可能な社会づくり」の内容に即したものであり、県内の特定の水域における危険の防止を図ることによって公共の安全を保持することは、県政の基本的な方針に適合している。				

	適法性 憲法、法令に抵触しないか。	本条例は、県内の特定の水域における河川利用者の危険の防止を図ることによって公共の安全を保持することを目的としたものであり、憲法、法令に抵触しない。	
	その他	—	
見直し結果	① 改正・廃止及び運用の改善等の必要はない。 ② 改正・廃止の必要はない。運用の改善等を検討する。 ③ 改正を検討する。運用の改善等の必要はない。 ④ 改正及び運用の改善等を検討する。 ⑤ 廃止を検討する。	理 由 等	
		現行条例の運用上の課題は見受けられないため。	